

土岐市土岐市立泉こども園 自己評価票（令和5年度）

A：達成できた、B：ほぼ達成できた、C：一部改善を要する、D：改善を要する

1. 保育の理念・目標・計画・評価

内容	評価	コメント
①園の保育方針を理解している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園の方針を理解し、それをクラスの保育目標に繋げて設定、一年間それをもとに保育教育を進めることができた。 ・複数担任のクラスでは、話し合う機会を多く設けており、共通意識のもと保育にあたることができていた。
②園の保育方針や目標に基づいて、クラスの年間保育目標を立てている。	A	
③担任間で話し合っ、保育目標を立てている。	A	
④各年齢の発達段階合わせた指導計画は、一人一人の発達にも留意している。	A	
⑤自らの保育を振り返り、向上や改善に努めている。	A	

2. 保育の内容

内容	評価	コメント
①保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう配慮している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を大切に、子どもの思いを受け止めることを意識して保育にあたっていた。
②子ども一人一人の思いを受け止め、その思いをできるだけ実現させようと努めている。	A	
③子どもたちが日々過ごすための安全な環境や適切な衛生状態に努めている。	A	
④身体的、精神的、情緒的発達等、多面的に子どもの状態を把握している。	A	
⑤保育室の整理整頓に努め、いつも気持ちの良い保育室づくりを心がけている。	A	
⑥行事の計画や実施にあたっては、以前の反省や評価を反映している。	A	
⑦特定の子どもを特別扱いしていない。	A	

3. 保育園の組織・役割分担

内容	評価	コメント
①職場内で連携がとれている（連携をとるように努めている）。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での声のかけあい、伝達が上手くできていた。 ・一人一人が自分の役割を理解し、責任をもって取り組んでいた。
②研修への参加や専門書により知識や技能の向上に取り組んでいる。	A	
③職員間で「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」ができている。	A	
④職場の中で各職員が自分の役割を自覚している。	A	
⑤保育を良くしたり、業務の効率化を図ったりするような提案が出されている。	A	

内容	評価	コメント
⑥各職員が任せられている仕事は責任感を持ってこなしている。	A	・職員会を活発に意見交換ができる場にするために、内容の検討が必要である。また、多くの職員が参加できるよう設定時間の変更も視野に入れていく。
⑦各職員が職員会などで必要と思う質問や意見を発言することができている。	A	
⑧研修で得た内容・成果は他の職員に伝達され、保育に生かされている。	A	

4. 家庭・地域社会

内容	評価	コメント
①保護者に対して、丁寧な言葉遣いと気持ちの良い対応を心がけている。	A	・概ねの項目が達成できた。 ・地域や関係機関との連携を意識している職員に限られている。就労時間や就労形態の理由で難しい部分もあるが、全職員に広がるとよい。
②送迎時等に子どもの姿を保護者に伝えている。	A	
③保護者に子どもの伸びているところや課題を伝えるなど連携をとっている。	A	
④家庭との連携を図るように努めている。	A	
⑤家庭環境及び食事習慣等園以外での子どもの状態を把握している。	A	
⑥地域や保護者の意見を保育等に反映している。	A	
⑦他園や関係機関との連携を図り、有効な対応に努めている。	B	
⑧保護者により対応を変えていない。	A	

5. 事務管理・運用

内容	評価	コメント
①個人記録簿は、適切に記載し、整理保管できている。	A	・個人情報の取り扱いには特に注意し、記録簿は鍵の付いた引き出しで管理した。
②園内で知りえた事柄に対して守秘義務は徹底できている。	A	
③金銭等を取り扱う場合、適正かつ適切に処理できている。	A	

6. 総評

・保育を進めていく上で、まず職員同士が良い関係性をつくるのが大切であると痛感した。相手を尊重しながらも意見を出し合えるような関係を園全体で作るために、まずは園長・副園長が職員一人一人に積極的に声をかけ、コミュニケーションを図っていくことが必要だと感じた。

・今年度より医療的ケア児の受け入れが始まった。子育て支援課を中心に関係機関と連携して保育を進めていく中で、ケア児は安定して園生活を送ることができ、その中で大きな成長を見せた。

・こども園に移行したことによる様々な変化の中でも、職員は自分の仕事を理解し精一杯努めていた。園児を安全に保育することの他にも様々な雑務があり、限られた時間内でこなしていくことは大変である。今年度子育て支援課と共に働き方改革に着手したことで、それなりの成果はあるが、今後も引き続き押し進めていく必要がある。